令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般社団法人江原河畔劇場
施設名	江原河畔劇場
内定額	3,270　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
普-01	たじま児童劇団	2025年6月～2026年2月	江原河畔劇場、他
普-02	ひょっこりシアター2025	2025年5月～2026年1月	江原河畔劇場
普-03	江原河畔劇場へ行こう！プロジェクト　えんげきワークショップ	令和7年5月17日	江原河畔劇場

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		10	11	18
		公演事業	5	5	10
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
		人材養成事業	0	3	3
		（内、本助成対象事業本数）	0	1	0
		普及啓発事業	4	3	5
		（内、本助成対象事業本数）	0	2	3
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　クリエーション	1	0	0

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	20	21	12
	ホール名：劇場　　座席数：140	9	13	3
	ホール名：スタジオ　　座席数：60	9	6	9
	ホール名：ロビー　　座席数：20	2	2	0
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		3,568	3,781	5,287
		公演事業	1,845	2,101	4,516
		人材養成事業	0	711	180
		普及啓発事業	917	969	591
		共生社会事業			
		その他　内容：クリエーション	806	0	0
	貸館事業入場者・参加者数		919	2,119	863
	その他　内容：共催・提携公演、インターンなど		3,327	1,619	915
	計		7,814	7,519	7,065
開館日数			344	341	337
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））			344	341	337
施設の利用日数			190	187	190
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）			55.2%	54.8%	56.4%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	5	13	998	4		1				
	共催・提携公演（※2）	4	19	1,174	4						
	貸館公演	3	7	440	2			1			
	計	12	39	2,612							
令和6年度	主催公演（※1）	5	20	1,443	5						
	共催・提携公演（※2）	1	9	564	1						
	貸館公演	6	13	1,239	4	1					1
	計	12	42	3,246							
令和7年度	主催公演（※1）	10	45	3,412	10						
	共催・提携公演（※2）	4	8	183	4						
	貸館公演	0	0	0							
	計	14	53	3,595							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般社団法人江原河畔劇場
施設名	江原河畔劇場
内定額	3,270　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			

普及啓発事業	・各事業の目標参加者数	・目標参加者数の達成 たじま児童劇団目標参加者数 40 名 ひょっこりシアター目標参加者数（延べ）160 名 えんげきワークショップ目標参加者数 25 名	・参加者数 たじま児童劇団参加者数 39 名 ひょっこりシアター延べ参加者数 135 名 えんげきワークショップ参加者数 28 名
	・参加者の満足度、反応	・アンケートで高評価を得る。「満足」以上の回答 80%	・参加者アンケート評価「満足」「楽しかった」以上の回答率 97.3% たじま児童劇団 シニアクラス 93.3%（15 件中） ジュニアクラス 100%（9 件中） ひょっこりシアター100%（13 件中）
	・関係者（保護者など）による評価	・アンケートで高評価を得る。「満足」以上の回答 80%	・関係者アンケート評価「満足」以上の回答率 100% たじま児童劇団 シニアクラス保護者 100%（14 件中） ジュニアクラス保護者 100%(16 中件) ひょっこりシアター付添者100%(7件中)
	・たじま児童劇団ジュニアクラス、シニアクラス、ひょっこりシアターの公演、発表会に於いて新規来館者数	・アンケート回答者の 35%以上が「初めての来館」と回答	・新規来館者数 33.3% たじま児童劇団 シニアクラス 37%（379 件中） ジュニアクラス 25%（77 件中） ひょっこりシアター20%（51 件中）
共生社会事業			

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	普及啓発事業においては、たじま児童劇団、ひょっこりシアター、えんげきワークショップを実施した。 参加者数は、たじま児童劇団 39 名（目標 40 名）、ひょっこりシアター延べ 135 名（目標 160 名）、えんげきワークショップ 28 名（目標 25 名）となり、一部未達成の事業もあったが、概ね目標に近い水準を維持した。 参加者アンケートでは「満足」「楽しかった」以上の回答が 97.3%と非常に高い評価を得ており、事業の質の高さが確認できる。また、保護者や付添者からの評価もすべて「満足」以上であり、参加者本人のみならず周囲からも高い支持を得た。 一方で、新規来館者割合は全体で 33.3%となり、目標値である 35%にはわずかに届かなかったが、一定数の新規層の来場につながっており、地域への広がりが見られる。 以上より、参加者満足度の高さと継続的な参加促進という点において大きな成果があり、地域における演劇体験の機会提供として有効に機能したと評価できる。

共生社会事業	
自己評価	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・助成金対象外事業を含む全ての事業において 劇場のレパートリー作品、レジデントカンパニー「青年団」や人材育成事業「無隣館インターナショナル」所属のアーティストの翻訳資料、翻訳台本を元にした、国際共同制作ないしは海外の劇場、フェスティバルからの委嘱作品の制作につながる、ステークホルダーとの意見交換や資料提供の実施回数。	・実施回数 10 回以上	・実施回数 37 回 「無隣館インターナショナル」の海外視察・プレゼン事業において、4 ヶ国 37 名のステークホルダーとの意見交換を実施。 エジンバラ（フェスティバルプロデューサー6 名、そのほか関係者 5 名） ダブリン（Dublin Fringe Festival ディレクター1 名、その他関係者 8 名） ソウル（プロデューサー5 名、その他関係者 3 名） アリカ（Centro MB2 芸術監督であるフェルナンド氏をはじめとした演劇関係者 9 名）

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	本年度は、韓国での海外公演および国内での英語字幕付き上演を通じて、国際的な発信力と受容環境の向上に取り組んだ。ソウル演劇祭への参加により国際的プレゼンスを高めるとともに、国内 14 ステージで延べ 1,176 名を動員し、多様な観客層へのアプローチを実現した。 また、評価指標である海外ステークホルダーとの意見交換は、目標 10 回に対し実績 37 回と大きく上回った。4 ヶ国における交流を通じて、今後の国際共同制作や海外展開につながる関係構築を進めることができた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	地域住民が利用しやすいよう十分なケアをしながら貸館事業を行っている
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
・18 歳以下の観劇者	・たじま児童劇団シニアクラスの公演、ジュニアクラス発表会、ひょっこりシアター発表会で 18 歳以下のアンケート回答者が全体で 20%以上	・18 歳以下の観劇者数 26.5% たじま児童劇団 シニアクラス公演 29.5%（379 件中） ジュニアクラス発表会 22.4%(76 件中) ひょっこりシアター発表会 10.2%（51 件中）
・新たなコミュニケーションの創出状況	・参加者アンケートで新しい人との交流について回答する人が 20 人以上	・新たなコミュニケーションの創出 19 人 たじま児童劇団 シニアクラス 11 件（15 件中） ジュニアクラス 3 件（16 件中） ひょっこりシアター5 件（46 件中）
・貸館利用者の満足度	・70%以上の人が「満足」と回答	・貸館利用者の満足度 100%（3 件中）

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	18 歳以下の観劇者割合は全体で 26.5%となり、目標である 20%を上回る結果となった。特にたじま児童劇団シニアクラス公演では 29.5%と高い割合を示し、若年層への鑑賞機会の提供という点で一定の成果が見られる。 新たなコミュニケーションの創出については 19 人と、目標の 20 人にはわずかに届かなかったが、多くの参加者が新しい人との交流を実感しており、地域コミュニティの形成に寄与している。 また、貸館利用者の満足度は 100%と非常に高く、地域住民にとって利用しやすい文化拠点として機能していることが確認できる。 以上より、地域に開かれた劇場としての役割を果たしつつ、次世代への文化体験機会の提供および地域コミュニティの活性化に貢献していると評価できる。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・助成対象外事業を含む公演事業での 18 歳以下の観劇者数	・18 歳以下観劇者数が全体の 30%	・18 歳以下観劇者数が全体の 19.6%
・助成対象外事業を含む全事業において障害者の観劇者数、利用者数	・障害者の観劇者数、利用者数が延べ 200 人	・障害者の観劇者数、利用者数延べ 143 人 観劇者数 12 人 障害者の利用者数 131 人

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	18 歳以下の観劇者数は 19.6%（目標 30%）、障害者の観劇者・利用者数は延べ 143 人（目標 200 人）と、いずれも目標未達となった。一方で、児童劇団や「ひょっこりシアター」等を通じて、多様な人々が参加できる機会の創出と環境整備は継続的に行っている。 プログラムや参画者の多様性は一定程度確保されているが、鑑賞機会への接続に課題が残る。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・（専門人材の育成）劇場でのインターン等を通じて、芸術文化に関わる専門人材の育成に貢献している。 ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・芸術文化観光専門職大学の学生、卒業生が当劇場の事業に関わる（インターン）参加者数	・80 人目標（R6 年度は 56 人）	・芸術文化観光専門職大学の学生、卒業生が当劇場の事業に関わる（インターン）参加者数 83 人 実習生 11 人 劇場アルバイト 8 人 短期アルバイト 17 人 江原河畔劇場ラボラトリーアソシエイトカンパニー公演 1 回目 16 人 江原河畔劇場ラボラトリーアソシエイトカンパニー公演 2 回目 12 人 ひょっこりシアタースタッフ 5 人 たじま児童劇団 ジュニアクラススタッフ 5 人 シニアクラススタッフ 3 人 アウトリーチでのワークショップアシスタント 6 名

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	芸術文化観光専門職大学の学生・卒業生の事業参加者数は 83 人となり、目標である 80 人を達成するとともに、前年度（56 人）から大きく増加した。 実習生、インターン、短期アルバイトなど多様な関わり方を通じて、若手人材が劇場運営や創作現場に関わる機会を提供しており、実践的な人材育成の場として機能している。また、たじま児童劇団やひょっこりシアター等への関与を通じて、教育・地域連携・創作を横断する経験の機会を創出している。 以上より、地域における芸術人材育成拠点としての役割を着実に果たしていると評価できる。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
助成対象事業を通じて、参加者の内面的な変化や、地域の中での関係性の広がりを実感する出来事が数多く生まれた。 「ひょっこりシアター」に参加していた方について、所属事業所のスタッフから「参加後、以前よりも社交的になった」という声が寄せられた。また、ある参加者は、事業所へ向かうバスの待ち時間に毎回劇場へ立ち寄るようになり、当初は人見知りで他者と会話を交わすことが難しかったが、現在では自らスタッフに声をかけるようになっている。劇場がその人にとって安心して過ごせる「もう一つの居場所」として機能していることがうかがえる。 さらに、演劇ワークショップでは、1 歳から 50 代まで幅広い世代の参加者が共に創作に取り組み、年齢や立場を超えて表現を共有する場が生まれた。この体験をきっかけに、参加者自身が同じ事業所の仲間を誘い、次のワークショップに新たな参加者を連れてくるなど、活動が自発的に広がっていく好循環も見られた。 また、「たじま児童劇団」ジュニアクラスの発表会では、インフルエンザにより出演できなくなった児童がいたが、ジュニアクラスの OB であり現在シニアクラスに所属する生徒が代役を申し出て出演した。世代を超えた支え合いと継続的な関係性が育まれていることを象徴する出来事であった。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…R７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	各種助成金の獲得、劇場支援会員数の増加にも努めている。劇場支援会員数 R6 年度(57 名)	劇場知名度を上げるために SNS 投稿を行っている R6 年度（3267 名）
目標(値)（※２）	前年度より 15 名増加を目指す	SNS 登録者数 4000 人を目指す
実績(値)	令和 7 年度の支援会員数 62 名	SNS 登録者数 3,632 人
団体の自己評価	助成金の獲得および支援会員の拡充により、多様な財源確保に取り組んでいる。支援会員数は増加しているものの、目標値には届いておらず、引き続き安定的な財源基盤の強化が課題である。	SNS を活用した広報により認知向上に取り組み、登録者数は着実に増加している。一方で、目標値には届いておらず、今後はより効果的な情報発信や集客につながる広報手法の強化が課題である。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	支援会員制度連携劇場として他館との連携・協力を行っている。 R6 年度（11 名）	劇場設置者とは定期的な協議を行い十分な意思疎通を行なっている。
目標(値)（※2）	連携劇場からの支援会員来場者数 15 名を目指す	引き続き対話を重ねながら、よりよい運営体制を模索し、ガバナンスの透明性にも配慮していく。
実績(値)	連携劇場からの支援会委員来場者数 9 名	定期的に協議を実施
団体の自己評価	他館との関係性は継続的に構築されている一方で、来場につなげるための情報発信や動機づけの工夫には課題が残る。今後は連携劇場間での広報の強化や企画連動などを通じて、相互送客の実効性を高めていく必要がある。	劇場設置者とは定期的な協議を通じて円滑な意思疎通を図っており、事業の方向性や運営上の課題について共有を行っている。より持続可能な運営体制の構築に向けた基盤づくりが進んでいる。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	配置されている	配置されている
目標(値)（※2）	継続的に芸術監督などの専門人材を配置し、作品の質向上を支える体制を強化する	中長期での視点で体制をさらに強化していく
実績(値)	芸術監督のもと、「江原河畔劇場ラボラトリー」など新規企画の立ち上げも行い、創造拠点としての機能強化につながっている。	経営実務者を配置し、年間を通じた運営および事業計画の管理を実施
団体の自己評価	創作の方向性が明確に保たれ、劇場の創造拠点としての機能が安定的に発揮されている。新たな取り組みを生み出す基盤として機能している。	継続的かつ安定した運営体制が維持されている。一方で、事業拡充に伴い業務負担の偏りも見られるため、中長期的な視点での体制強化が課題である。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	努めている	分担されている
目標(値)（※2）	技術系・制作系等の専門人材を積極的に採用・育成し、専門性の高い体制を整える	芸術監督・館長・法人理事・現場スタッフの役割分担をさらに明確にし、円滑な運営を図る
実績(値)	実習生やインターン、短期アルバイトなど多様な関わり方を通じて、技術系・制作系人材が現場に参画している。	芸術監督・館長・法人理事・現場スタッフそれぞれの役割に基づき、業務の分担を行いながら運営を実施している。
団体の自己評価	専門人材の確保・育成に向けて、実践の場を通じた人材育成が機能している。一方で、継続的に専門性を担う人材の確保には課題があり、今後は育成と定着の両面から体制強化が必要である。	役割分担に基づいた運営は行われているが、事業拡充に伴い業務の重なりや負担の偏りも見られる。今後は各役割の整理と明確化を進め、より円滑で持続可能な運営体制の構築が必要である。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	大学生などの若手人材確保を行っている	女性管理職比率は 30%以上である
目標(値)（※2）	若手人材（大学生含む）のインターンやスタッフ育成を進め、将来を担う世代との協働体制を構築する	引き続き女性管理職の比率 30%以上を維持し、ジェンダーバランスの取れた職場環境づくりを推進する
実績(値)	大学生を中心とした若手人材が、インターンやスタッフとして各事業に継続的に参画している。	女性管理職比率 30%以上を維持し、運営において女性がリーダーシップを担う体制が継続されている。
団体の自己評価	若手人材の参画により、世代間の協働が生まれ、劇場運営に多様な視点が取り入れられている。一方で、人材の定着には課題もあり、今後は育成と継続的な関わりの仕組みづくりが必要である。	ジェンダーバランスに配慮した運営体制が整えられている。今後も多様な人材が活躍できる環境づくりを継続し、バランスの取れた組織運営を推進していく必要がある。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	整備し、推進している	規定を策定し研修も行っている。さらに情報セキュリティや各種コンプライアンスに関して、日々のミーティングで職員同士議論を行っている
目標(値)（※2）	勤務スケジュールの柔軟化により、育児･介護との両立できる環境を整備する	全スタッフへの定期的な研修を継続し、情報管理と倫理意識の徹底を図る
実績(値)	勤務スケジュールの調整等により、個々の状況に応じた柔軟な働き方の運用を行っている。	コンプライアンスに関する規定の整備および研修を実施するとともに、日々のミーティングにおいて情報セキュリティや倫理意識に関する共有を行っている。
団体の自己評価	ワークライフバランスに配慮した体制整備と運用が行われており、柔軟な働き方を一定程度実現している。一方で、事業状況により業務負担が偏る場面もあるため、今後はより安定的に両立できる環境づくりが課題である。	コンプライアンスに関する体制整備と研修の実施に加え、日常的な対話を通じて意識の共有が図られている。今後も定期的な研修を継続し、情報管理および倫理意識のさらなる定着を図る必要がある。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ハラスメントガイドラインを策定し、定期的な勉強会、研修を実施している。また、相談窓口を設置し、複数名でハラスメント案件に対応している。	適正な契約を交わしている
目標(値)（※2）	ハラスメント相談体制を強化し、定期的な研修･学習機会の提供を通じて安心安全な職場環境を構築する	アーティスト・スタッフとの契約書を交わし透明性の高い契約管理を継続する
実績(値)	ハラスメントガイドラインの策定および定期的な研修･勉強会を実施するとともに、相談窓口を設置し、複数名による対応体制を整備している。	アーティストおよびスタッフと契約書を締結し、適正な契約事務を実施している。
団体の自己評価	ハラスメント防止に関する体制整備と研修の実施により、安心して活動できる環境づくりが進められている。また、複数名による相談対応体制により、適切な対応が可能な仕組みが整えられている。今後も継続的な学習機会の提供を通じて、より安全な職場環境の構築が求められる。	契約書の締結により、透明性のある契約管理が行われている。今後も適正な契約事務を継続し、信頼性の高い運営体制の維持が必要である。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
本年度は、普及啓発事業を中心に高い参加者満足度（97.3%）を達成し、地域における演劇体験の機会提供として大きな成果を上げた。また、国際事業では海外ステークホルダーとの交流が目標を大きく上回り、国際的なネットワークの構築と今後の展開につながる基盤を形成した。さらに、地域文化拠点として若年層への鑑賞機会の提供や貸館事業においても高い満足度を維持し、地域に開かれた劇場としての役割を果たしている。 一方で、多様性とアクセシビリティの指標や新規来館者割合、財源拡充等においては目標未達の項目もあり、鑑賞機会への接続や広報・集客の強化、持続可能な運営体制の構築が課題として残る。 以上より、本劇場は創造・普及・国際・地域連携の各側面において着実な成果を上げつつも、今後の発展に向けた改善点を明確に認識しており、地域に根ざした創造拠点としての機能強化を継続していく段階にあると評価する。

備考